

令和3年度 東京港ICT活用促進事業の概要について

事業名 : 東京港における海上コンテナ陸上輸送のデジタル化事業
応募事業者 : 【代表】 株式会社ムーブシェアジャパン（情報処理サービス業）
【連携】 株式会社LCCトレーディング（輸出・国内卸売業）
目的とする効果 : 東京港における交通混雑の緩和

取組内容

- コンテナ配送予約、運行管理等を行うマッチングプラットフォーム”Move It 4u”（ムーブイットフォー・ユー）を使用し、東京港の混雑緩和に寄与するコンテナ配送の実証実験を実施
- コンテナターミナルが比較的空いている午前中に「コンテナヤード」と「バンプール・民間車庫」との間を配送するジョブをアプリで作成し、コンテナヤードから荷主までの一連の配送を切り分けて手配する仕組みを構築

【コンテナ配送の実証実験の仕組み】

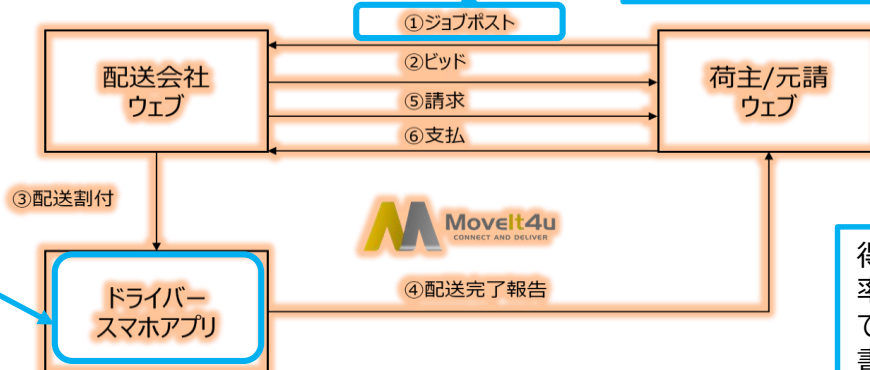
配送手配から完了報告に係る情報の全てのやり取りをアプリにより実施（①～⑥）

コンテナヤード（CY）から荷主までの配送を切り分け、CYが比較的空いている午前中に、CYとバンプール・民間車庫との間の配送ジョブを作成

【現状】 CY ⇄ 出荷元・出荷先

【実証】 CY ⇄ 民間車庫・バンプール ⇄ 出荷元・出荷先

東京港でコンテナ配送に従事するドライバーにスマートフォンを無償貸与（4台）、構内横持車両用として運用



得られた車両待機時間、車両稼働率等の実証実験前後のデータについて、山梨学院大学東研究室が報告書を作成

令和3年度 東京港ICT活用促進事業の概要について

実施内容

- 東京港のコンテナヤードと荷主間の配送を港内バンプール等を中継拠点に切り分けた上で、スマートフォンアプリを活用し、業務指示を行うことで、ドライバーの待機・停車時間の削減効果を検証

【配送業務の切り分け】

- ・ 東京港のヤードから港内バンプールまでの業務と、港内バンプール等から客先（荷主等）への配送業務を切り分ける
- ・ 実証実験期間中に 1運送事業者で90台の配送車両に対し4台の港湾専用車を設定
 - 港湾専用車両：4台
1台のトラックヘッドで、複数のシャーシを使用し、東京港内のシャーシプール、車両待機場、コンテナヤード、港湾地区倉庫を、コンテナの出入れを実施
 - その他配送車両：86台
港湾専用車両がストックヤードへ仮置きしたコンテナを配送することで、客先への配送車両がコンテナヤードに進入する回数を削減

【スマートフォンアプリによる業務指示】

- ・ コンテナ配送（大型牽引）ドライバーに、スマートフォン（GPS機能付）を貸与
- ・ 配車担当者が配車した情報をアプリケーションに取込み、ドライバーに業務指示を行う

【効果（狙い）】

- ・ 従来電話や口頭で行っていた業務指示を文字で行う
⇒ 指示ミスを防止
- ・ 従来の電話による完了報告は、アプリケーション内で実施、パソコンの画面からステータスが確認可能
⇒ 電話対応等、配車担当者の事務負担を軽減



令和3年度 東京港ICT活用促進事業の概要について

実証実験の概要

● 実施日程 令和4年2月1日(火) から 2月28日(月) まで

● 実施結果 実証実験前と比較し、1日当たり平均の車両待機時間や総労働時間が減少

※ ドライバー1名の実証実験前(40日間平均)と、実証実験期間中の以下のデータを比較し、労働時間・待機時間等の変化を検証

検証項目	結果	時間の変化
車両待機時間	15.8%改善	1日あたり待機時間(平均) 9時間5分 → 7時間39分
労働時間(業務効率)	14%改善	1日あたり労働時間(平均) 12時間16分 → 10時間33分

< 山梨学院大学東研究室(報告書) >

- ・ 実証実験を通じて「コンテナヤードでの待ち時間が長く、出荷先の立地や交通事情で走行距離・所要時間が変化する」というこれまでの配送ジョブを、特性の異なる2種類のジョブに切り分けることができた
- ・ マッチングプラットフォームを活用して特性の異なるジョブを柔軟に組み合わせることで、ドライバーの就業時間をより効率的に活用することが出来るようになった

< 利用者の意見(運行管理者・ドライバー) >

- ・ 港内専用車両がいるため、当日急ぎで東京港コンテナヤードへ戻る必要がなく、高速道路料金の金銭的負担が減少した
- ・ 今後、配送する貨物量が多くなった場合、客先(荷主等)までの配送業務車両と港内専用車両の台数配分をどうするかが課題

事業の効果と今後の取組

- コンテナヤードでの荷役を東京港が比較的空いている午前中に行うことで、午後にコンテナヤードに向かう車両の絶対数が減り、その結果、待機時間も減少 ⇒ 東京港における物流効率化及び渋滞緩和に寄与
- 今後は、配送ジョブ情報をオープン化し、他社から依頼を受けることで、実施規模の拡大を目指す

令和3年度 東京港ICT活用促進事業の概要について

システムの概要

システム名 : Moveit4u(ムーブイットフォー・ユー)

使用機器 : スマートフォン シャープ製 SHG06(5G対応機種)

⇒ 「配送予約」「運行管理」「車両追跡」「諸連絡」等をスマートフォンを利用し、全ての業務をデジタル・オンライン化



— STEP 1 —

アプリ(Google/Apple)
ダウンロード



— STEP 2 —

ドライバー情報登録



— STEP 3 —

地図上でジョブを検索
配送会社がウェブで実施



— STEP 4 —

配送予定がSMSで
ドライバーに通知



— STEP 5 —

配送完了ボタン



— STEP 6 —

荷主がサイン
*請求書に添付